高西中学校　研究部通信

ＴＴ通信

～TEAM TAKANISHI　心一つに　未来をつくる～

第１２号
令和２年８月３１日
研究主任　小坂

オンライン研修に参加して（教育実践夏季セミナー2020＠甲南女子大学）

～今できる学びを通して～

８月９日（日）に校長室にてZOOMを活用した甲南大学人間科学部総合子ども学科主催のオンライン研修に参加しました。今回のオンライン研修では，カリマネのスペシャリストである甲南女子大学教授　村川雅弘先生をはじめ，文部科学省の新型コロナウイルス感染症対策と学力保障のカリキュラム・マネジメント担当である石田有記学校教育官，前文部科学省視学官の田村学先生（國學院大學教授）など多くの分野で最先端で活躍される先生方の講話や実践について学ぶことができました。この研究通信をとしてその一端を学校全体で共有し生徒へ還元できたらと考えております。このコロナ禍の中でも学びを止めず，今できる形で学び続けるきっかけになればと思います。

主体的・対話的で深い学びの実現へ　～粒を塊へ～

（國學院大學　田村学教授より）

「主体的な学び」の実現へ

学ぶことに興味や関心を持ち，自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら，見通しをもって粘り強く取り組み，自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」を実現する。

そのために，リアリティのあるクオリティの高い**課題設定**が欠かせない。そして，学習活動の見通しを明らかにし，学習活動のゴールを鮮明に描くことが大切。（授業の流れの提示）その見通しがあることにより，学びが連続し，発展していくことが期待できる。そして，振り返りは，自らの学びを意味づけたり，価値付けたりして自覚し，学びの成果を実感させる。このことが新たに学びに向かう主体的な姿を具現化していく。

「対話的な学び」の実現へ

生徒同士の協働，教職員や地域の人との対話，先哲の考え方を手掛かりに考えることを通して，自己の考えを広げ深める「対話的な学び」を実現する。

異なる多様な他者と学び合いを重視することが大切となる。より学びを豊かにするための次の３点に配慮する。１つ目は，子どもがどのような知識や情報をもっているか。２つ目は，そうした知識や情報をどのように処理するか。（思考ツールの活用）３つ目は，どのような成果物を期待するか。である。

「深い学び」の実現へ

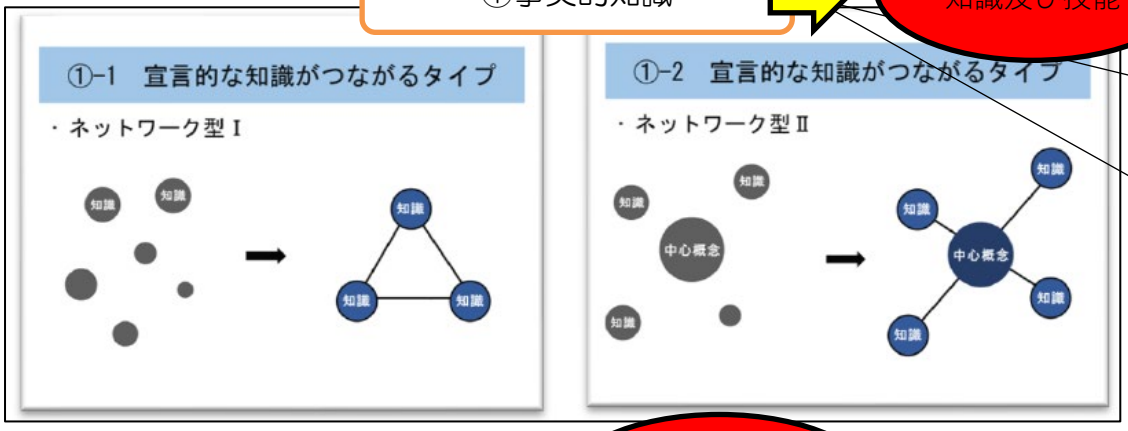
習得・活用・探究という学びの過程の中で，各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら，知識を相互に関連付けてより深く理解したり，情報を精査して考えを形成したり，問題を見いだして解決策を考えたり，思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」を実現する。

各教科で身に付けたバラバラの知識や技能をつないだり，関連付けて“駆動”することで「深い学び」が実現する。

さまざまな知識

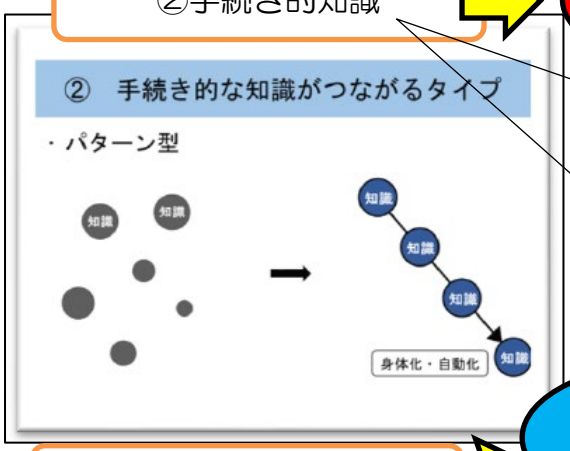
「知識の構造化」～知識の４つのタイプ～

①事実的知識 → 知識及び技能



「ＡはＢである」「Ａならば Ｂである」の形で表現される事実としての知識がつながってネットワーク化し，知識の階層が質的に高まるイメージ。

②手続き的知識 → 知識及び技能



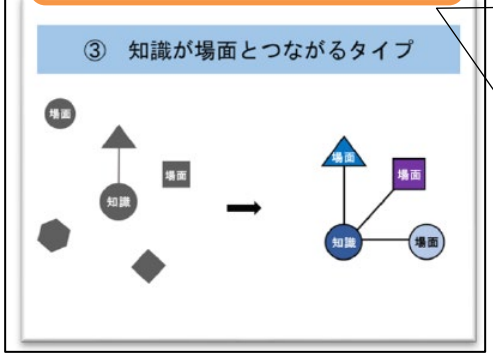
言語化された手続き的な知識がつながって連続し，パターン化した一連の知識構造になるイメージ

「より適切・適正な」「より持続的・安定的な」更衣として表出するイメージ

学びに向かう力、人間性等

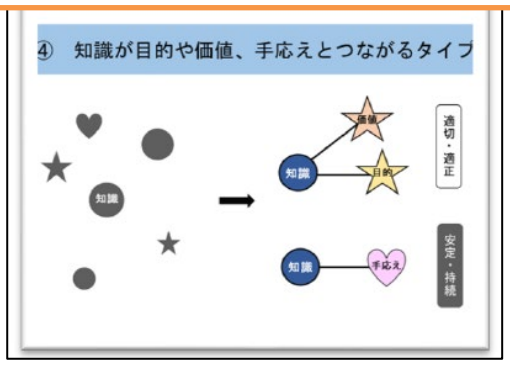
思考力・判断力・表現力等

③知識と場面がつながる



知識が新たな場面や異なる状況とつながり，必要に応じて活用・発揮できる汎用的な知識へと高まるイメージ。

④知識が目的や価値，手応えとつながる

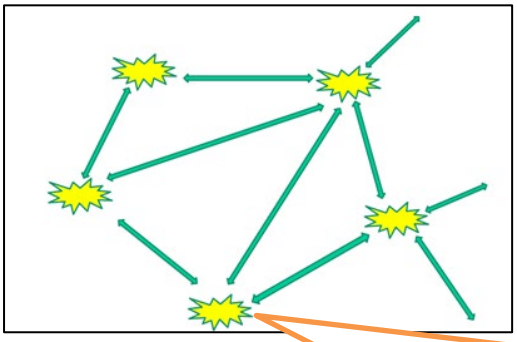


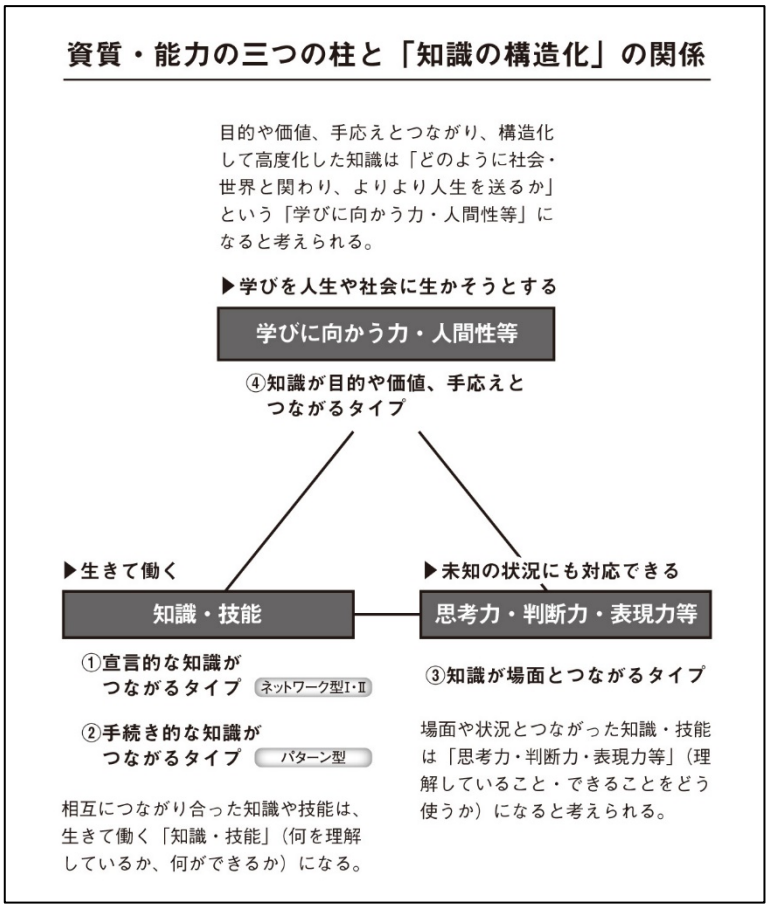
知識（「事実的知識」と「手続き的知識」）を定着させるために！

育成すべき資質・能力の３つの柱の内の「知識及び技能」

右の図の資質・能力の三つの柱の内の１つである「知識・技能」について本校でどのように取り組んでいくのかを確認しましょう。各教科で学んだバラバラの知識をつなげて新しい知恵（概念）を見いださせる授業展開をしていきましょう。では，どのように具体的に授業していくか全体で共有しましょう。

イメージとしては，個別のバラバラの知識の粒を，塊にして新しい概念を見いださせましょう。





事実的で個別的な知識を→概念的で構造的な知識へ

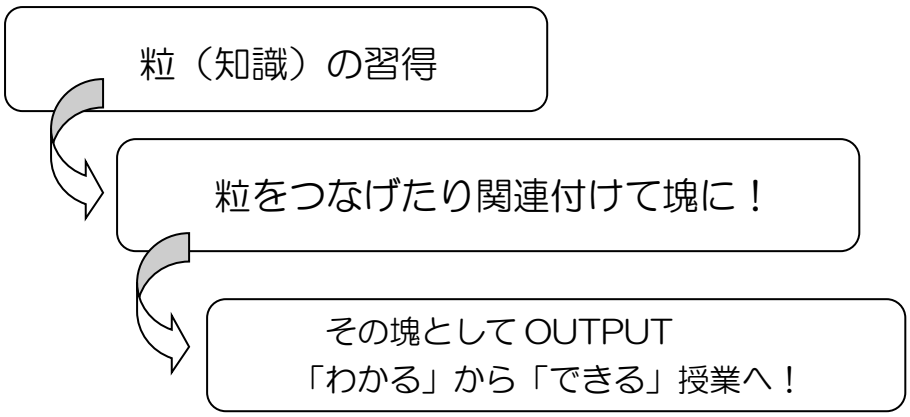
知識の粒を塊にする授業展開を！

導入　・あこがれや違和感（ずれ）のある導入を！
　　必然的な課題設定を！

展開　・塊をつくるための粒を出し合う
　　・黒板に粒（知識や技能）を情報としてみえるようにしておく
　　※これまでは「暗記しておくもの」であったが，「調べればある」ものは黒板に整理して見える化しておく（構造化された板書）
　　・その際，思考ツールを活用する（どういう場面で使うべきなのか見極める）

終末　・まとめや振り返りは，黒板に見える化した「粒」をつなげて「塊」にする
　　※「書く」ことの見直し・・・コロナ禍の今だからこそ「書く（表現すること）」に重点をおく

整理すると・・・・

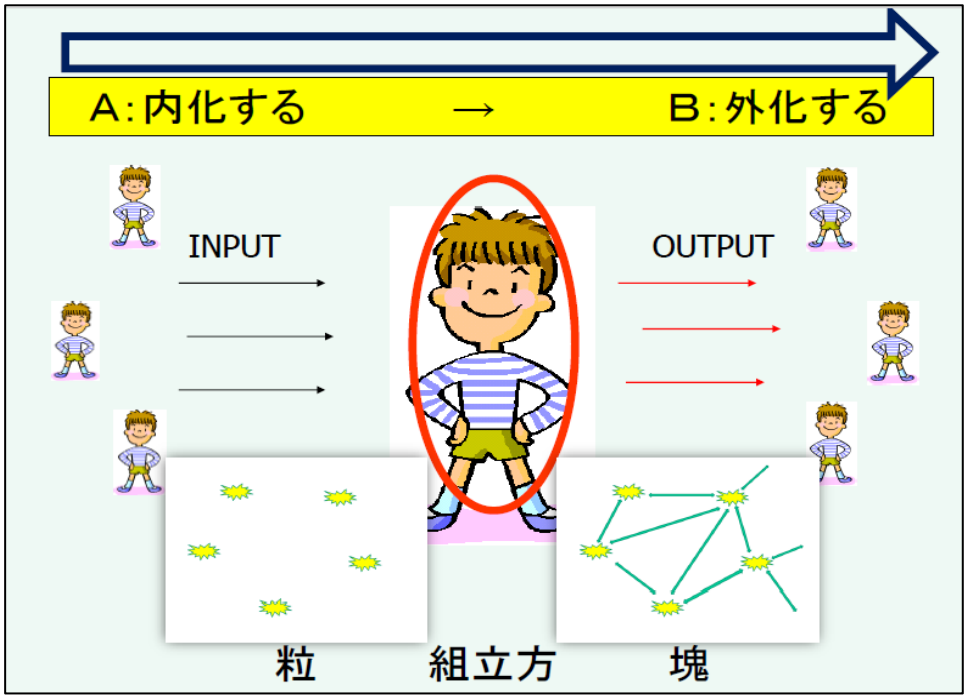


そうすることで「深い学び」を実現！！「深い学び」を言い換えると・・・・

「知識・技能をつなぐ（関連付ける）」

活用・発揮

OUTPUT（外化すること）を意識的に！



　各授業で INPUT した内容を，意識的に OUTPUT しなければ定着度を高めることはできません。（「わかった」だけではなく「できた」と感じる授業づくり）
そのために，各授業で意図的に OUTPUT していかなくてはいけません。
　そこで本校で取り組んでいる「めあて」に対しての「まとめ」そして授業の最後を締めくくる「振り返り」を大切に取り組んでいきましょう。コロナ禍の今，生徒同士の対話は十分にすることができません。いまだからこそ，「書く」ことをもう一度学校全体で見直し，全教科が同じ方向性を向いて取り組んでいければと思います。どうぞよろしくお願いします。

【参考文献：「深い学び」　著：田村学（東洋館出版社）】